

誰にでもやさしい街を

めざして



「障害」「差別」について考えよう！

「障害」「差別」… 考えだすと難しい2つのことば。
そこで、逆に「何ができるだろう?」と考えて集めました。

障害のある人に聞いた

「杉並区で見つけた良かったことやモノ」

筆談してくれて
うれしかった。



ドアを開けて
もらってとても
助かった。



ちょっとした
「思いやり」や「やさしさ」
それらが広がれば自然と、差別をしない
「誰にでも」やさしい街に！

ちょっとした「やさしさ」や「思いやり」のある行動 わたしたちにできること、いろいろありますよ！



レジで目を見返して親切に対応してくれる。マスクをとって口元を見せてくれることもある。
【聴覚障害者】

コンビニで



高いところにある品物をとってくださいと頼むと皆さんとってくれる。
【肢体不自由者】

【肢体不自由者】

商店街で



子どもが、あいさつをもらうまで「おはようございます」「ただいま」と繰り返すのですが、お店の人は応えてくれる。
【知的障害のある子どものお母さん】

ドアを開けてくれる。
【車いす使用者】

道で



昔よりも点字ブロックをふさぐような路上駐輪が減った。普段歩いている道路は、点字ブロックがふさがれていない。
【視覚障害者】

駅で



「何かお手伝い
しましょうか」

レストランで



メニューに写真がついている。
【聴覚障害者】 【知的障害者】

学校で



食べ物の場所を時計の3時6時9時の位置で教えてくれる。
【視覚障害者】

やさしさの第一歩は声かけから



障害者差別解消法

～「障害」のある人に対して、「差別」をしてはいけませんというルール～

「障害」って？ 心や体の障害だけでなく、社会のあちこちにある障害



「障害」って、何かの理由で心や体がうまく働かないことかなあ。手や足が動かしにくいとか…。

では、右の絵を見てみよう。
車いすを使っている人は、お店に入ることができるかな？



入口が斜面になっているから、車いすのまま入れそう！
あ、でも一人でドアをあけられるかなあ。

そうだね。もし入口が段差になっていたり、誰も手伝ってくれなかったら、車いすの人はとても「大変な思い」をしなければならない。これも「障害」なんだよ。



心や体の問題だけではないんだ。

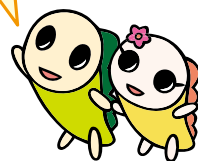
そうだね。「障害」とは、その人だけの問題だけではなく、道や建物にある「段差」や不親切な「行動」など、私たちが暮らすまち、社会の問題でもあるんだ。



みんなで
何ができるか、
考えてみよう



私たちの工夫や、思いやりのある行動で、少しでも「障害」を軽くしたり、なくすことができるかもしれないね。



「差別」をなくすって？ やってはいけないことと、やってほしいこと



No!



車いすを使っているからという理由だけでお店に入ることを断られた。

本当は、少しの工夫や思いやりでみんなと一緒にお店に入ることができるのに…。

心や体がうまく働かないことだけを理由として、「できる」のに「断る」こと、これを「**不当な差別的取扱い**」といって、絶対にやってはいけません。



Yes!



耳が不自由な人が困っていたら、紙に文字を書いて教えてくれた。

障害のある方が困っているときに、ちょっとした思いやりやお手伝いといった心配りが助かります。この心配りを「**合理的配慮**」といい、できるのにやらないと差別になります。

進んで声をかけて、まずは自分が「できる」ことから、やってみましょう。